



統計関連ポリシーの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [統計情報収集ポリシーの設定, 1 ページ](#)
- [統計情報しきい値ポリシーの設定, 3 ページ](#)

統計情報収集ポリシーの設定

統計情報収集ポリシー

統計情報収集ポリシーは、統計情報を収集する頻度（収集インターバル）、および統計情報を報告する頻度（報告インターバル）を定義します。報告インターバル中に複数の統計データポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが Cisco UCS Manager に提供されます。

NIC 統計情報の場合、Cisco UCS Manager は最後の統計情報収集以降の平均値、最小値、最大値の変化を表示します。値が 0 の場合、最後の収集以降変化はありません。

統計情報は、Cisco UCS システムの次の 5 種類の機能エリアについて収集し、報告できます。

- アダプタ：アダプタ関連統計情報
- シャーシ：シャーシ関連統計情報
- ホスト：このポリシーは、将来サポートされる機能のためのプレースホルダです
- ポート：サーバポート、アップリンクイーサネットポート、およびアップリンクファイバチャネルポートを含むポートに関連した統計情報
- サーバ：サーバ関連統計情報



- (注) Cisco UCS Managerには、5つの機能エリアそれぞれについて、デフォルト統計情報収集ポリシーが1つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更することだけが可能です。
- Cisco UCS Managerでデルタカウンタに表示される値は、収集間隔での最後の2つのサンプル間の差異として算出された値です。さらに、Cisco UCS Managerには、収集間隔のサンプルの平均、最小、最大の各デルタ値が表示されます。

統計情報収集ポリシーの変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニタリングモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/monitoring # scope stats-collection-policy {adapter chassis host port server}	指定されたポリシータイプの統計情報収集ポリシーモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/stats-collection-policy # set collection-interval {1minute 2minutes 30seconds 5minutes}	統計情報をシステムから収集する間隔を指定します。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/stats-collection-policy # set reporting-interval {15minutes 30minutes 60minutes}	収集された統計情報の報告間隔を指定します。
ステップ 5	UCS-A /monitoring/stats-collection-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、ポートの統計情報収集ポリシーを作成し、収集間隔を1分、レポート間隔を30分に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope stats-collection-policy port
UCS-A /monitoring/stats-collection-policy* # set collection-interval 1minute
UCS-A /monitoring/stats-collection-policy* # set reporting-interval 30minutes
UCS-A /monitoring/stats-collection-policy* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/stats-collection-policy #
```

統計情報しきい値ポリシーの設定

統計情報しきい値ポリシー

統計情報しきい値ポリシーは、システムの特定の側面についての統計情報をモニタし、しきい値を超えた場合にはイベントを生成します。最小値と最大値の両方のしきい値を設定できます。たとえば、CPU の温度が特定の値を超えた場合や、サーバを過度に使用していたり、サーバの使用に余裕がある場合には、アラームを発生するようにポリシーを設定できます。

これらのしきい値ポリシーが、CIMC などのエンドポイントに適用される、ハードウェアやデバイスレベルのしきい値を制御することはありません。このしきい値は、製造時にハードウェアコンポーネントに焼き付けられます。

Cisco UCSを使用して、次のコンポーネントに対して統計情報のしきい値ポリシーを設定できます。

- サーバおよびサーバ コンポーネント
- アップリンクのイーサネット ポート
- イーサネット サーバ ポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクタ
- ファイバ チャネル ポート



(注) イーサネット サーバ ポート、アップリンクのイーサネット ポート、またはアップリンクのファイバチャネルポートには、統計情報のしきい値ポリシーを作成したり、削除できません。既存のデフォルト ポリシーの設定だけを行うことができます。

サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシー設定

サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope orgorg-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # create stats-threshold-policy <i>policy-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシーを作成し、組織統計情報しきい値ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/stats-threshold-policy # set descr <i>description</i>	(任意) ポリシーの説明を記します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /org/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、`ServStatsPolicy` という名前のサーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシーを作成し、ポリシーに説明を加え、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create stats-threshold-policy ServStatsPolicy
UCS-A /org/stats-threshold-policy* # set descr "Server stats threshold policy."
UCS-A /org/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/stats-threshold-policy #
```

次の作業

統計情報しきい値ポリシーに1つ以上のポリシークラスを設定します。詳細については、「[サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシークラスの設定](#) (5 ページ)」を参照してください。

サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシーの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete stats-threshold-policy <i>policy-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシーを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、ServStatsPolicy という名前のサーバおよびサーバコンポーネント統計情報しきい値ポリシーを削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # delete stats-threshold-policy ServStatsPolicy
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシークラスの設定

はじめる前に

ポリシークラスを含むことになるサーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシーの設定や識別を実行します。詳細については、「[サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシーの設定](#)、(3 ページ)」を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope stats-threshold-policy policy-name	組織統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/stats-threshold-policy # create class class-name	指定された統計情報しきい値ポリシークラスを作成し、組織統計情報しきい値ポリシークラスモードを開始します。 <i>class-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシーに使用できるクラス名キーワードのいずれかになります。使用可能なクラス名キーワードのリストを表示するには、 create class ? コマンドを組織統計情報しきい値ポリシーモードで入力します。 (注) 統計情報しきい値ポリシーには複数のクラスを設定できます。
ステップ 4	UCS-A /org/stats-threshold-policy /class # create property property-name	指定された統計情報しきい値ポリシークラスプロパティを作成し、組織統計情報しきい値ポリシークラスプロパティモードを開始します。 <i>property-name</i> 引数は、設定されている特定の統

	コマンドまたはアクション	目的
		計情報しきい値ポリシー クラスに使用できるプロパティ名キーワードのいずれかになります。使用可能なプロパティ名キーワードのリストを表示するには、 create property ? コマンドを組織統計情報しきい値ポリシー クラス モードで入力します。 (注) ポリシークラスには複数のプロパティを設定できます。
ステップ 5	UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property # set normal-value <i>value</i>	クラス プロパティに通常値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定しているクラスプロパティによって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set normal-value ? コマンドを組織統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティ モードで入力します。
ステップ 6	UCS-A /org/stats-threshold-policy /class/property # create threshold-value { above-normal below-normal } { cleared condition critical info major minor warning }	クラス プロパティに、指定したしきい値を作成し、組織統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティしきい値モードを開始します。 (注) クラスプロパティに対して複数のしきい値を設定できます。
ステップ 7	UCS-A /org/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # set { deescalating escalating } <i>value</i>	降格または昇格のクラス プロパティしきい値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定されているクラス プロパティしきい値によって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set deescalating ? または set escalating ? コマンドを組織統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティしきい値モードで入力します。 (注) 降格と昇格の両方のクラスプロパティしきい値を指定できます。
ステップ 8	UCS-A /org/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、CPU 統計情報のサーバおよびサーバコンポーネント統計情報しきい値ポリシークラスを作成し、CPU 温度プロパティを作成し、通常の CPU 温度を摂氏 48.5 度に指定し、通常超えの警告しきい値摂氏 50 度を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope stats-threshold-policy ServStatsPolicy
UCS-A /org/stats-threshold-policy* # create class cpu-stats
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class* # create property cpu-temp
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 48.5
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
```

```
warning
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating 50.0
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
UCS-A /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

サーバおよびサーバコンポーネントの統計情報しきい値ポリシー クラスの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。 ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope stats-threshold-policy policy-name	指定された統計情報しきい値ポリシーを入力します。
ステップ 3	UCS-A /org/stats-threshold-policy # delete class class-name	指定した統計情報しきい値ポリシー クラスをポリシーから削除します。
ステップ 4	UCS-A /org/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、CPU 統計情報のサーバおよびサーバコンポーネント統計情報しきい値ポリシークラスを削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope stats-threshold-policy ServStatsPolicy
UCS-A /org/stats-threshold-policy* # delete class cpu-stats
UCS-A /org/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/stats-threshold-policy #
```

アップリンク イーサネット ポートの統計情報しきい値ポリシー設定

アップリンク イーサネット ポートの統計情報しきい値ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-uplink	イーサネット アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default	イーサネット アップリンク 統計情報しきい値ポリシー モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) アップリンク イーサネット ポート統計情報しきい値ポリシーの作成 (または削除) は実行できません。既存のデフォルトポリシーに入る (スコープを設定する) ことだけが可能です。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # set descr <i>description</i>	(任意) ポリシーの説明を記します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、デフォルト アップリンク イーサネット ポートしきい値ポリシーに入り、ポリシーの説明を記入し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy* # set descr "Uplink Ethernet port stats threshold policy."
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy #
```

次の作業

統計情報しきい値ポリシーに1つ以上のポリシー クラスを設定します。詳細については、「[アップリンク イーサネット ポートの統計情報しきい値ポリシー クラスの設定, \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

アップリンク イーサネット ポートの統計情報しきい値ポリシー クラスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-uplink	イーサネット アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default	イーサネット アップリンク 統計情報しきい値ポリシー モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # create class <i>class-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシー クラスを作成し、イーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス モードを開始します。 <i>class-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシーに使用できるクラス名キーワードのいずれかになります。使用可能なクラス名キーワードのリストを表示するには、 create class ? コマンドをイーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー モードで入力します。 (注) 統計情報しきい値ポリシーには複数のクラスを設定できます。
ステップ4	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy /class # create property <i>property-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティを作成し、イーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティ モードを開始します。 <i>property-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシー クラスに使用できるプロパティ名キーワードのいずれかになります。使用可能なプロパティ名キーワードのリストを表示するには、 create property ? コマンドをイーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス モードで入力します。 (注) ポリシー クラスには複数のプロパティを設定できます。
ステップ5	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy /class/property # set normal-value <i>value</i>	クラスプロパティに通常値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定しているクラスプロパティによって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set normal-value ? コマンドをイーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティ モードで入力します。
ステップ6	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy /class/property # create threshold-value { above-normal below-normal } { cleared condition critical info major minor warning }	クラス プロパティに、指定したしきい値を作成し、イーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティしきい値モードを開始します。 (注) クラス プロパティに対して複数のしきい値を設定できます。
ステップ7	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # set { deescalating escalating } <i>value</i>	降格または昇格のクラスプロパティしきい値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定されているクラス プロパティしきい値によって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set deescalating ? または set escalating ? コマンドをイーサネットアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラスプロパティしきい値モードで入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 降格と昇格の両方のクラス プロパティしきい値を指定できます。
ステップ 8	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、イーサネット エラー統計情報のアップリンク イーサネット ポート統計情報しきい値ポリシー クラスを作成し、巡回冗長検査 (CRC) エラー カウント プロパティを作成し、各ポーリング間隔の通常の CRC エラー カウントを 1000 に指定し、通常超えの警告しきい値 1250 を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy* # create class ether-error-stats
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class* # create property crc-delta
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 1000
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
1250
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

アップリンク イーサネット ポートの統計情報しきい値ポリシー クラスの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-uplink	イーサネット アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default	イーサネット アップリンク 統計情報しきい値ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # delete class class-name	指定した統計情報しきい値ポリシー クラスをポリシーから削除します。
ステップ 4	UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、イーサネット エラー統計情報のアップリンク イーサネット ポート統計情報しきい値ポリシー クラスを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default
```

```
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy # delete class ether-error-stats
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/stats-threshold-policy #
```

サーバポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクットの統計情報しきい値ポリシー設定

サーバポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクットの統計情報しきい値ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-server	イーサネット サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-server # scope stats-threshold-policy default	イーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。 (注) サーバポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクットの統計情報しきい値ポリシーの作成（または削除）はできません。既存のデフォルトポリシーに入る（スコープを設定する）ことだけが可能です。
ステップ 3	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy # set descr description	(任意) ポリシーの説明を記します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、デフォルトのサーバポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクット統計情報しきい値ポリシーに入り、ポリシーの説明を記入し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-server
UCS-A /eth-server* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy* # set descr "Server port, chassis, and fabric
interconnect stats threshold policy."
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy #
```

次の作業

統計情報しきい値ポリシーに1つ以上のポリシー クラスを設定します。詳細については、「[サーバポート、シャーシ、およびファブリックインターコネクットの統計情報しきい値ポリシー クラスの設定](#)、(12 ページ)」を参照してください。

サーバポート、シャーシ、およびファブリックインターコネクットの統計情報しきい値ポリシー クラスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-server	イーサネット サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-server # scope stats-threshold-policy default	イーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy # create class class-name	指定された統計情報しきい値ポリシー クラスを作成し、イーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシークラスモードを開始します。 <i>class-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシーに使用できるクラス名キーワードのいずれかになります。使用可能なクラス名キーワードのリストを表示するには、 create class ? コマンドをイーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシー モードで入力します。 (注) 統計情報しきい値ポリシーには複数のクラスを設定できます。
ステップ 4	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy /class # create property property-name	指定された統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティを作成し、サーバアップリンク統計情報しきい値ポリシー クラス プロパティ モードを開始します。 <i>property-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシー クラスに使用できるプロパティ名キーワードのいずれかになります。使用可能なプロパティ名キーワードのリストを表示するには、 create property ? コマンドをイーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシー クラス モードで入力します。 (注) ポリシークラスには複数のプロパティを設定できます。
ステップ 5	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy /class/property # set normal-value value	クラスプロパティに通常値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定しているクラスプロパティによって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set normal-value ? コマンドをイーサネットサーバ統計情

	コマンドまたはアクション	目的
		報しきい値ポリシー クラス プロパティ モードで入力します。
ステップ 6	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy /class/property # create threshold-value { above-normal below-normal } { cleared condition critical info major minor warning }	クラス プロパティに、指定したしきい値を作成し、イーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシークラス プロパティしきい値モードを開始します。 (注) クラスプロパティに対して複数のしきい値を設定できます。
ステップ 7	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # set { deescalating escalating } <i>value</i>	降格または昇格のクラス プロパティしきい値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定されているクラス プロパティしきい値によって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set deescalating? または set escalating? コマンドをイーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシークラスプロパティしきい値モードで入力します。 (注) 降格と昇格の両方のクラスプロパティしきい値を指定できます。
ステップ 8	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、シャーシ統計情報にサーバポート、シャーシ、ファブリックインターコネクット統計情報しきい値ポリシー クラスを作成し、入力電力 (W) プロパティを作成し、通常電力を 8 kW に指定し、通常超えの警告しきい値 11 kW を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-server
UCS-A /eth-server* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy* # create class chassis-stats
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class* # create property input-power
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 8000.0
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
11000.0
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

サーバポート、シャーシ、およびファブリックインターコネクットの統計情報しきい値ポリシークラスの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-server	イーサネットサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-server # scope stats-threshold-policy default	イーサネットサーバ統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy # delete class class-name	指定した統計情報しきい値ポリシークラスをポリシーから削除します。
ステップ 4	UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、シャーシ統計情報のファブリックインターコネクット統計情報しきい値ポリシークラス、シャーシ、サーバポートを削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-server
UCS-A /eth-server* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy* # delete class chassis-stats
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /eth-server/stats-threshold-policy #
```

ファイバチャネルポートの統計情報しきい値ポリシー設定

ファイバチャネルポートの統計情報しきい値ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンクモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope stats-threshold-policy default	ファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) アップリンク ファイバチャネルポート統計情報しきい値ポリシーの作成（または削除）は実行できません。既存のデフォルトポリシーに入る（スコープを設定する）ことだけが可能です。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # set descr <i>description</i>	(任意) ポリシーの説明を記します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、デフォルトアップリンクファイバチャネルポート統計情報しきい値ポリシーに入り、ポリシーの説明を記入し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy* # set descr "Uplink Fibre Channel stats threshold policy."
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy #
```

次の作業

統計情報しきい値ポリシーに1つ以上のポリシークラスを設定します。詳細については、「[ファイバチャネルポートの統計情報しきい値ポリシークラスの設定](#)、(15 ページ)」を参照してください。

ファイバチャネルポートの統計情報しきい値ポリシークラスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンクモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope stats-threshold-policy default	ファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシーモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # create class <i>class-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシークラスを作成し、ファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシークラスモードを開始します。 <i>class-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシーに使用できるクラス名キーワードのいずれかになります。使用可能なクラス名キーワードのリストを表示するには、 create class ? コマンドをファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシーモードで入力します。 (注) 統計情報しきい値ポリシーには複数のクラスを設定できます。
ステップ4	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy /class # create property <i>property-name</i>	指定された統計情報しきい値ポリシークラスプロパティを作成し、ファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシークラスプロパティモードを開始します。 <i>property-name</i> 引数は、設定されている特定の統計情報しきい値ポリシークラスに使用できるプロパティ名キーワードのいずれかになります。使用可能なプロパティ名キーワードのリストを表示するには、 create property ? コマンドをファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシークラスモードで入力します。 (注) ポリシークラスには複数のプロパティを設定できます。
ステップ5	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy /class/property # set normal-value <i>value</i>	クラスプロパティに通常値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定しているクラスプロパティによって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set normal-value ? コマンドをファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシークラスプロパティモードで入力します。
ステップ6	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy /class/property # create threshold-value { above-normal below-normal } { cleared condition critical info major minor warning }	クラスプロパティに、指定したしきい値を作成し、ファイバチャネルアップリンク統計情報しきい値ポリシークラスプロパティしきい値モードを開始します。 (注) クラスプロパティに対して複数のしきい値を設定できます。
ステップ7	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # set { deescalating escalating } <i>value</i>	降格または昇格のクラスプロパティしきい値を指定します。 <i>value</i> の形式は、設定されているクラスプロパティしきい値によって異なる場合があります。必要な形式を確認するには、 set deescalating ? または set escalating ? コマンドをファイバチャネルアップリンク統計情報

	コマンドまたはアクション	目的
		しきい値ポリシー クラス プロパティしきい値モードで入力します。 (注) 降格と昇格の両方のクラスプロパティしきい値を指定できます。
ステップ 8	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy /class/property/threshold-value # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、ファイバチャネル統計情報にアップリンク ファイバチャネル ポート統計情報しきい値ポリシークラスを作成し、平均受信バイトプロパティを作成し、通常の各ポーリング間隔の平均受信バイト数を 150 MB に指定し、通常超えの警告しきい値 200 MB を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink* # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy* # create class fc-stats
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class* # create property bytes-rx-avg
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 150000000
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
200000000
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

アップリンク ファイバチャネル ポートの統計情報しきい値ポリシー クラスの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネル アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope stats-threshold-policy default	ファイバチャネル アップリンク 統計情報 しきい値ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # delete class class-name	指定した統計情報しきい値ポリシー クラスをポリシーから削除します。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、ファイバチャネル統計情報のアップリンク ファイバチャネルポート統計情報しきい値ポリシー クラスを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope stats-threshold-policy default
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy # delete class fc-stats
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/stats-threshold-policy #
```